

# 新医療の創造で世界を牽引する

研究と臨床、地域と医療、いまとこれからをつなぎながら

## 2024年に創立125周年を迎えました

明治32(1899)年12月に京都帝国大学医科大学附属医院として開設され、令和6(2024)年12月に125周年を迎えました。「人類の健康と福祉に貢献すること」を使命とし、安心・安全な医療の提供と先端的医学研究に貢献すると同時に、開設以来変わることのない当院の基本理念のもと、患者中心の開かれた病院として安全で質の高い医療を提供すると同時に新たな医療の開発を行い、また優れた医療人の育成に努めてきました。

開設125周年を記念して、市民公開講座の開催、記念誌の発行、記念式典の挙行など、様々な事業を実施しました。

これまで積み重ねてきた歴史をひもときつつ、革新的な医療開発に取り組み、地域医療の強化に寄与する京大病院のあるべき姿を目指し、進化し続ける病院として、今後も人々が健やかに過ごすことのできる安心社会の実現に貢献を続けていきます。

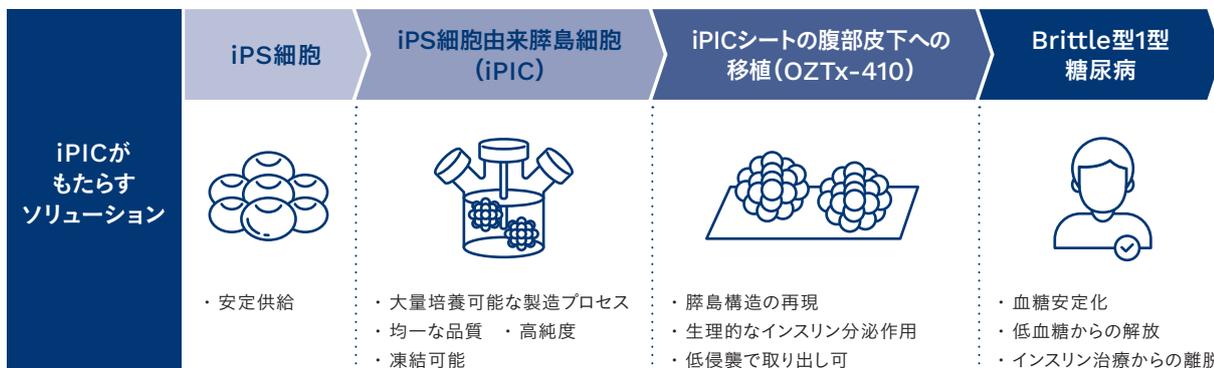


## 「iPS由来膵島細胞シート移植に関する医師主導治験」の開始

医学部附属病院糖尿病・内分泌・栄養内科の矢部大介教授らは、肝胆膵・移植外科と連携し、膵島移植が適応となる1型糖尿病患者さんを対象としたiPS由来膵島細胞シートの安全性を確認するための医師主導治験を開始することとなりました。

この治験で使用されるiPS細胞由来膵島細胞(iPICs)は、京都大学iPS細胞研究所(CiRA)と武田薬品工業株式会社の共同研究により、CiRAのプロジェクトの一環として開発されたものです。

将来的に、糖尿病領域における移植医療のドナー不足解消に貢献し、患者さんの新たな治療選択肢となることを目指します。



## 「ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都」誘致

病気と向き合う子どもとその家族が安心して過ごせる「ドナルド・マクドナルド・ハウス 京都(京都ハウス)」の誘致が決定しました。

病気と向き合う子どもたちは大学病院等の設備・スタッフの揃った専門病院で治療を受けることが多く、自宅から遠く離れた病院に入院するケースも多くあります。

そのような子どもたちとその家族のために、“HOME AWAY FROM HOME”のコンセプトのもと、どんな時でも家族と一緒にいられるように「第二の我が家」として、小児がん拠点病院である京都府立医科大学附属病院と京都大学医学部附属病院の共同利用施設となる京都ハウスは、関西圏では「おおさか健都ハウス」「神戸ハウス」につぎ3番目に開設されるハウスとなります。

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン、京都府立医科大学附属病院と連携しながら、多くの家族に寄り添い、支えています。



京都ハウスイメージパース図